

自治大卒業生の声

自治大学校卒業生（第2部課程第209期）

大阪府門真市 企画財政部 ICT推進課 三原 且規

編集者注：本稿は、自治大学校における研修の特長などについて、自治大学校の卒業生が記したものです。

1. はじめに

私は、令和7年9月2日から11月14日までの約2ヶ月半の間、自治大学校第2部課程第209期生として研修に参加しました。

研修を終えて実務に戻った現在も、物事を多角的に捉える「視野の広がり」を実感しています。自治大学校は、学びと出会いが凝縮された、私にとって大きな転機となる場所でした。私の経験が、入校を検討・予定されている皆さまの一助となれば幸いです。

2. 入校前の準備

派遣にあたっては、自治大学校OBの上司から激励を受け、職場の皆さんにも温かく送り出してもらいました。家族からの理解と支援もあり、落ち着いて研修に臨むことができました。

入校前には、法制課目のe-ラーニングや事前レポートなどの課題が課されます。量は多く容易ではありませんでしたが、基礎知識の再確認や地域課題の整理につながり、その後の講義や演習の理解を深める良い準備となりました。



自治大学校正門前

3. 講義・演習での学び

(1) 講義課目について

講義課目では、憲法、行政法、財政制度といった基本法制から、地方自治をめぐる最新の政策課題まで幅広く学びました。また、これからのまちづくりや地域共生社会のあり方を考えるうえで、従来の行政の枠組みを超えた視点の重要性を学び、自身の考え方を見つめ直す契機にもなりました。

災害対応に関する講義では、被災地の生々しい体験談を通じて、混乱や緊張が続く厳しい状況下で、職員がどれほど重い判断を求められるのかを実感するとともに、平時から住民との信頼関係を築いておくことの重要性を改めて痛感しました。

(2) 演習課目について

こうした講義内容を実践的に深める場となったのが演習課目です。特に政策立案演習では、特定の自治体を対象に、現状分析から課題抽出、解決策の提言までを一貫して検討しました。その過程で、論理的思考の重要性を強く実感し、判断の精度が高まったと感じました。仲間の多様な視点や指導教官の鋭い指摘は、自分の考えを深める大きな刺激となりました。また、班の調整や司会進行を経験する中で、異なる課題や背景を持つ他自治体の仲間と意見を統合する難しさにも直面しました。その一方で、合理的かつ効率的に議論を進めるためのファシリテーションの重要性を強く実感しました。さらに、プレゼンテーションや受講者の興味を引くための技法など、人に伝えるための実践的なスキルについても、演習を通じて磨くことができました。

4. 寮生活での交流

自治大学校の最大の魅力は、全国から集まった志の高い仲間と交流できることにあると言っても過言ではありません。第209期生には全国各地から61名が参加し、自治体規模や職位は様々で、年齢層は30代後半から40代後半が中心でした。一方で、立場や経験が異なっても、地元愛は共通しており、特産品や観光地など、自らのまちを誇らしげに語る姿に何度も触れました。

講義後は各フロアの談話室に集まり、全国の自治体が抱える課題や業務の進め方について夜遅くまで情報交換を行いました。

私は人付き合いが得意ではありませんが、周囲の仲間が温かく接してくれたおかげで、自然と交流を深めることができました。また、宴会やイベントなどは自由参加であったため、自分の時間も確保しながら、必要な時に深い交流を持てるという適度な距離感で過ごせたことは、長期研修を無理なく続けられた理由の一つです。

5. 今後の業務に活かしたいこと

本研修で得た視座を踏まえ、今後は次の点を意識して業務に取り組む所存です。

第一に、地域特有の課題を見極めた「実効性の高い政策形成」です。研修で学んだ分析手法や多様な事例を踏まえ、成功例をそのまま当てはめるのではなく、門真市の歴史や文化、地域の生活実態といった地域固有の背景に根差した潜在的な課題を、客観的なデータも踏まえながら丁寧に掘り起こす姿勢を大切にしたいと考えています。

第二に、多様な主体との交流から学びを得ることです。全国の同期生との議論を通じて自治体ごとの課題の違いを知り、新たな視点を得ました。さらに、地域課題に取り組む方々や住民との交流は、行政が捉えるべき本質的なニーズを理解するうえで重要であると再確認しました。こうした学びを

生かし、広い視野と柔軟な発想で変化に対応できる職員でありたいと考えています。

第三に、将来の自治体の姿を見据えた「構想力」です。目先の課題解決に終始するのではなく、20年、30年後の持続可能な自治体運営のために、戦略的な行政運営の在り方を考え続ける視点を持ち続けることです。とりわけ、激甚化する自然災害への備えを含め、平時からのリスクを見据えた構想力を高めていく必要があると感じています。

6. おわりに

この約2ヶ月半の研修を通じて、経験則に頼っていた判断が論理的に整理されるとともに、自身の行動が組織や地域に及ぼす影響の大きさを改めて実感しました。また、自治大学校で築いた絆は、卒業後も互いに励まし合える貴重な財産となりました。

研修で得た知見や経験、そして仲間との絆を力に、日々の業務の中で自らを磨きながら、今後も門真市の発展に貢献していきたいと考えています。

このような貴重な機会を与え、研修期間中も支えてくださった職場の皆さま、日々の生活を支えてくれた家族に感謝しています。また、自治大学校職員の皆さま、講師・教官の皆さま、第209期生の皆さまには、日々のご指導や励ましをいただき、この場を借りて御礼申し上げます。

最後に、これから入校される皆さまにとっても、自治大学校での経験が有意義なものとなることを心より願っております。



寄宿舎からの景色（富士山も見えます）